

学習指導要領		都立井草高校 学カスタンダード
<p>(1) 自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。</p> <p>生きる自己の課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・青年期における自我のめざめについて理解し、第二の誕生、周辺人、モラトリアム、アイデンティティの確立、発達段階といった概念を通して、青年期の意義と課題について理解する。 ・ジェンダーと多様性について考察する。 ・現代の若者をめぐる諸課題について、同時代を生きる自己の在り方生き方とも密接に結び付けて考察する。 ・欲求の段階説と防衛機制について理解し、フロイトとユングの説く無意識の世界についての理解を深めていく。
<p>(2) 自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。</p> <p>人間として</p> <p>ア 人間としての自覚</p> <p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシアの自然哲学者から新プラトン主義に至る思想的な流れを理解し、神話的な世界観を脱して、理性によって自然や人間の本質を追究したギリシア哲学の展開について説明できる。 ・啓示宗教の特徴について理解するとともに、民族宗教としてのユダヤ人の特徴やその歴史的展開について理解する。 ・イエスの言行について理解するとともに、パウロらの伝導によってキリスト教が世界宗教として広がる基礎が築かれたことを理解する。 ・パウロの原罪思想に見られるキリスト教の人間観を理解し、人類愛の実践を説くキリスト教の精神は普遍的な価値をもっていることを理解する。 ・イスラム教の成立過程と変遷について理解し、同一神教であるユダヤ教、キリスト教と比較して、その共通点と相違点を説明できる。 ・仏教の説く人間観について理解し、「無常・無我」「空」の思想と「中道」や「慈悲」の考えを実践する生き方について、その現代的意義を説明できる。
<p>イ 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・古代日本人の宗教観や人間観について、「古事記」や「日本書紀」、「万葉集」などの記述を踏まえて説明できる。 ・日本人の自然観の形成について、砂漠型や牧場型の

学習指導要領	都立井草高校 学力スタンダード
<p>理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>(3) 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>ア 現代に生きる人間の倫理 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。</p>	<p>風土との比較や、自然を神の被造物と捉える一神教的な考え方との比較を通じて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代に至るまでの我が国における仏教の歴史的展開について、代表的な人物とその思想を踏まえて理解するとともに、仏教の文化的な影響について説明できる。 ・江戸時代の武士階級における儒学の定着と発展、町人や農民に広がった石門心学や報徳思想、自然世などについて理解する。 ・江戸時代の蘭学や洋学の発展、明治時代における天賦人權論や民約論の広がりなどを基に、西洋思想が我が国に与えた影響について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスや宗教改革を先導した人々の考え方や、モラリスト、カントの思想等を具体的に例示して、自由や人間の尊厳について説明できる。 ・帰結主義と義務論の倫理学説について説明できる。 ・科学革命の先駆者や、イギリス経験論、大陸合理論の系譜に連なる先哲の思想など、現代の科学技術の成立とその発展に寄与した考え方について説明できる。 ・西洋における民主社会の形成とその発展について理解すると共に、社会契約説の考え方を踏まえて、現実の市民革命等の歴史事象を理論的に説明できる。 ・ヘーゲルやマルクス、功利主義の思想家の考え方について、当時の社会状況を踏まえて説明できる。 ・実存主義を有神論的な実存主義と無神論的な実存主義に分類して捉え、その相違点と共通点を踏まえて、主要な思想家の考え方を説明できる。 ・サルトルの考え方などを援用し、社会とのかかわりの中で人間は自己の在り方を選択していくということを説明できる。 ・ロールズやA.センの考え方などを基に、公正な社会を実現するための諸原理について説明できる。 ・構造主義やポストモダンを代表する思想家を取り上げ、現代の知識の枠組みに関して説明できる。

学習指導要領	都立井草高校 学カスタンダード
<p>イ 現代の諸課題と倫理</p> <p>生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術の発達が人間の身体観や生命観に与える影響について、例えば脳死と臓器移植の問題や、生命の質(QOL)と生命の尊厳(SOL)の問題などを事例として説明できる。 ・ メディア情報が生み出すステレオタイプや、疑似イベントの危険性など、負の側面にも触れて、情報社会の進展がもたらす影響を説明できる。 ・ AI技術や情報化が進展する中でのテクノロジーと監視・権力の関係について説明できる。 ・ 異なる文化や宗教をもつ人々が、相互の差異を認め合い、共生していくことを指向する多文化主義の考え方について説明できる。 ・ 人類全体の福祉と国際平和の実現に向けて、ひゅマニズムの思想と事例を挙げて説明できる。